

# 今月の農業情報

## 尾 張

### 西春日井で地域住民に高付加価値米づくりの理解を促進

と き 平成30年6月28日（木）

ところ 北名古屋市熊之庄

農業改良普及課は県の「地域戦略促進支援事業」を活用し、西春日井地域において、地域住民参加による高付加価値米づくりに取り組んでいます。本年度、北名古屋市役所からの提案で、地元水田作法人の協力により新たに設置している高付加価値米の展示ほ場に、住民参加を促進するための水田魚道を設置することになりました。今回、水田魚道説明会が開催され、参加した地域住民有志である「田んぼの生き物観察会」のメンバーに対し、農業改良普及課から地域戦略の取組内容と展示ほの概要（無化学合成農薬による種子消毒、機械除草、化学肥料5割減に向けた有機質肥料の施用）を説明しました。参加者から高付加価値米のネーミングについて提案があるなど取組が理解され、住民、地元農家、行政が一体となって活動を行っていくことになりました。今後、この展示ほ場で開催する「水生生物観察会」により、地域住民に水田の多面的機能と高付加価値米への理解が深まることが期待されます。



【高付加価値米生産の目的と展示ほの概要を説明】

農業改良普及課は都市近郊地域で存続できる水田農業経営確立のため、地域戦略計画の具体化を目指していきます。

## 海 部

### レンコンにドローン～ラジコンヘリに続き実演会～

と き 平成30年6月26日（火）

ところ 愛西市

レンコン栽培における薬剤散布の省力化を図るため、ラジコンヘリによる散布実演会が、平成30年5月に立田すいれん研究会、JAあいち海部共催で行われました。この実演会終了後、薬剤散布の省力化に関心が高まった会員から「ドローンでの薬剤散布も見てみたい」との意見が多数出たことを受け、今回はドローンの実演会が開催されました。



【ドローンによる農薬散布状況】

両機種 of 薬剤散布状況を比べると、作業時間は10a当たりラジコンヘリで1分、ドローンで5分でしたが、プロペラ音等騒音はドローンの方が小さいことが確認できました。会員からは「資料から想像するのと現場で見るとは違う。レンコン組合員全員に見てもらいたい」との声が上がりました。実演会を実施したJAは、「ラジコンヘリとドローンの利用は、処理能力、騒音、必要経費等一長一短がある。組合員全員を対象とした実演会の実施やアンケート等により導入機運を高めていきたい。」と前向きな意欲を示しました。

レンコン栽培では茎葉が繁ると管理作業が重労働となることから十分な管理が困難でした。農業改良普及課ではドローン等新しい技術の導入に積極的に関わり、関係機関とともにレンコンの産地振興を図っていきます。

と き 平成30年6月28日（木）

ところ 大府市

農業改良普及課では、ブドウ直売農家の経営安定に向けたブドウの品質向上に取り組んでいます。

あさだフルーツガーデンでは二重被覆ハウス栽培で、「シャインマスカット」の早期出荷を目指しています。2年前からは2月中旬から加温して6月下旬に販売しており、今年も6月28日から「シャインマスカット」の販売を開始しました。

一方で、加温栽培では花芽の着生不足が問題となっています。そこで昨年、農業改良普及課から、近年ブドウでの花芽分化促進と果粒肥大効果が報告されているLED電照について情報提供し、導入をすすめたところ、今作から4つのハウスにLEDライトを設置し、萌芽時期から電照を開始することになりました。

照射の結果、例年よりも花穂の伸びが良く、果粒肥大も順調で収穫量の増加が見込まれています。花芽の分化促進効果については、来年度に花芽の数で調査します。農業改良普及課では今後も、情報提供や調査支援などを行い、生産者の経営改善に向けた取組を支援します。



【「シャインマスカット」の房（5/23撮影）】



【設置されたLEDライト】

と き 平成30年6月25日（月）

ところ 安城市民会館（安城市）

愛知県農村生活アドバイザー協会西三河支部碧海分会（以下、「碧海分会」という。）は、10月にJAあいち中央組合長と語る会を計画しています。そこでJAの女性の総代（以下、「女性総代」という。）の活躍の場を広げる提言の参考にするため、同JAの女性総代に対してアンケートを実施しました。

碧海分会の役員で女性総代でもある永坂君子氏が中心となって、他の会員に意見をもらいながら、質問内容を決定しました。

農業改良普及課は、アンケート実施に先立ち、目的や明らかにしたい内容などを明確にさせるため、実施計画の立案を支援しました。併せて、JAとの事前調整をおこないました。

碧海分会のアドバイザー会員2名が総代会開催前にアンケートを実施したところ、女性総代らは快く協力してくれ、予定した30名を大きく上回る55名から回答をもらうことができました。大勢の協力を得られたことで、会員たちの活動に弾みがついたようでした。

今後、農業改良普及課は、アンケート結果の集計を行うとともに、会員がその結果を考察し、提言のとりまとめができるよう支援をしていきます。



【アンケートを依頼する会員】

と き 平成30年7月3日

ところ JAあいち豊田猿投選果場

JAあいち豊田桃部会は、主力品種「白鳳」の目揃会を開催しました。今年度は、開花が早く生育が進んだため、昨年度よりも7日早い開催となりました。糖度は、平均14.8Brix%で平年よりやや高い結果でした。

部会では、今年度の出荷量を過去10年間で最高であった昨年度の出荷量33,786箱（1箱5kg）に対し、32,000箱（対比95%）と見込んでいます。また、昨年度から始めた高糖度・大玉果実の特別規格「天使の微笑（ほほえみ）」の販売を、今年度も行う予定です。

今年は気温が高く推移したため、果皮が着色するよりも果肉が先に熟す傾向であり、収穫果の中には果肉が水浸状に褐変するみつ症と呼ばれる生理障害果の混入がみられます。また、昨年10月に襲来した台風の影響等により、今年は春先からせん孔細菌病の発生がみられ、秀品率を下げる原因となっています。そのため、出荷する際は、選別作業を徹底するよう部会内で意識統一を図りました。

農業改良普及課では、さらに病虫害防除の徹底について指導を行い、産地のブランド力を高めて有利販売につながるよう、高品質な果実の安定生産を支援していきます。



【樹上の「白鳳」果実】

## 新城・設楽

## トマト新規就農者3名、頑張って出荷中！

と き 平成30年8月中旬

ところ 新城市作手地区

新城市では、市の「第2次担い手確保育成総合支援計画」に基づき、農業改良普及課始め農業関係機関が役割分担して、新規就農者の確保・育成に取り組んでいます。

本年3月、（公財）農林業公社しんしろの就農研修を受講した3名が、1年間の研修を終えて就農し、JA愛知東トマト部会作手支部に加入しました。3名はいずれも市外出身の新規参入者です。

新規就農者は、JAの新設した鉄骨ハウス団地で、国の「農山漁村振興交付金」を活用してヤシガラ培地耕を導入し、トマト栽培を開始した。4月中旬の定植以降、農業改良普及課及びJA、既存の作手支部員が初期の樹づくり、施肥管理などの指導を重点的に行った結果、他の生産者と同様に6月中旬から出荷することができました。収穫と誘引作業に追われながらも、7月上中旬、8月中旬の出荷ピークも何とか乗り越えました。

異常高温など、今年の極端な天候下で草勢管理に苦労しているものの、ほ場管理はうまく出来ています。また、3名のうち2名は雇用労力確保が課題でしたが、離れて住む家族の助けや、JAの無料職業紹介所や市の広報誌へ求人広告を掲載するなどの方法で、労力不足を何とか補っています。

農業改良普及課は、収穫期後半の大きな失敗がないよう、また次年度に向けての課題を解決できるようサポートしていきます。



【ほ場の状況（8月9日）】

と き 平成30年6月9日（土）

ところ 野口牧場ログハウス（豊橋市老津町）

農村生活アドバイザー豊橋ブロックは、豊橋市産の農畜産物を地域住民に知ってもらうことを目的に、アドバイザー会員が講師となって、食農教育体験を年3回毎回違うテーマで実施しています。

今年度の第1回では、小学生とその保護者（7組 11名）を対象として、会員の野口千恵子氏が講師となり、ペットボトルを使ったバター作り体験と、酪農の仕事などの講話を行いました。

野口氏は、牛の乳が出る仕組みと酪農の仕事について、紙芝居を使って子ども達の反応を見ながらわかりやすく教え、子ども達は驚いたり、笑ったりしながら学びました。

会員からは、子どもを対象とした企画は大変だが、楽しくてやりがいも大きいので、来年度もぜひ取り組みたいとの意見がありました。

今年度の食農教育体験はあと2回計画しており、農業改良普及課では参加者がより農業現場を理解できるような企画となるよう助言を行うなど、今後も活動を支援していきます。



【紙芝居を使って  
子どもに教える野口氏】

と き 平成30年6月

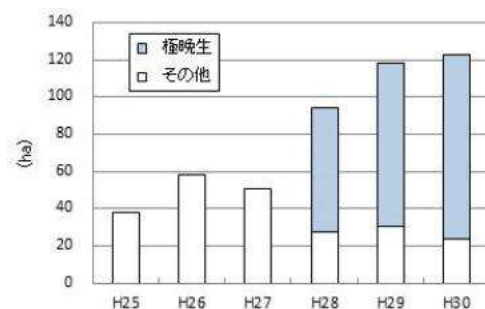
ところ 田原市内

田原市内では、土づくりを目的としてソルゴーを中心とした緑肥作物の栽培が増加しています。平成30年のソルゴー導入面積は123haであり、5年前（平成25年）と比べて3.2倍に増加しました。

ソルゴー栽培は、平成16年にJA愛知みなみ常春部会の部会員全員がエコファーマーの認定を受けたことを契機として徐々に増加してきました。近年は、キャベツの年2作体系が増加し、地力低下が心配されることから、土づくりの重要性が再認識されて導入が増えています。

園芸施設周辺では、出穂したソルゴーにアザミウマ類が寄生し施設内に侵入して病虫害を発生させることが危惧されました。それを回避するため、平成27年から田原市環境保全型農業推進協議会土づくり検討部会（市、JA、農業改良普及課で構成）で品種特性調査を行い、平成28年から出穂の遅い極晩生品種の導入が始まりました。

農業改良普及課では、県の地域戦略促進支援事業を活用し、この取組を推進してきました。今後も、露地野菜の生産安定に向け、関係機関とともに土づくり対策を推進していきます。



【ソルゴー導入状況  
（農業改良普及課調べ）】